2022/6

スクールカウンセラー便り　No.3

ユニセフ(国連児童基金)の基幹報告書である『**世界子供白書 2021**』(2021/10/5 発表)の日本語翻訳版(https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/UNICEF_SOWC_2021.pdf)が公表されました。テーマは、**「子どもたちのメンタルヘルス」**です。

報告書によると、COVID-19 以前から、子どもや若者は、メンタルヘルスの問題に対処するための十分な投資がない中で、その苦しみを背負ってきており、パンデミックは、これまで無視されてきた様々な子どもや若者のメンタルヘルスの問題をあぶり出したが、それは氷山の一角であると指摘しています。ヘンリエッタ・H・フォア UNICEF 事務局長は、まえがきで以下のように述べています。(抜粋)

「多くの子どもたちは、悲しみ、傷つき、不安を抱えている。この世界がどこに向かっているのか、自分の居場所はどこにあるのかと悩んでいる子どももいる。パンデミックが起きなくても、心理社会的苦痛やメンタルヘルスの不調が、あまりにも多くの子どもたちを苦しめている。子どもたちのメンタルヘルスを無視すれば、彼らが学び、何かに取り組み、有意義な関係を築き、世界に貢献する能力を損なうことになる。また、親や養育者のメンタルヘルスを無視すれば、彼らが自分の能力を最大限に発揮して子どもを育て、世話ができるように支援することができない。そして、社会におけるメンタルヘルスの問題を無視すれば、それについての会話を遮断し、スティグマを強め、子どもや養育者が必要な支援を求めるのを妨げることにつながる。私たちは、これ以上沈黙してはならない。世界中で声を上げて行動を求めている若者たちの声に、耳を傾けなければならない。そして、行動しなければならない。」

最新の推計によると、世界の 10～19 歳の若者の 7 人に 1 人以上が、心の病気の診断を受けていると言われています。また、毎年 4 万 6,000 人近い若者が自殺しており、この年

齢層の死因の上位５位に入っています。一方で、メンタルヘルスに関するニーズと資金の間には大きなギャップがあります。報告書は、世界で、政府の保健・医療分野予算のうち、メンタルヘルスに関する支出に割り当てられているのは、わずか２%であると指摘しています。

子どもたちの生活に与える影響は計り知れませんが、報告書の中でロンドン・スクール・オブ・エコノミクスが行った新しい分析によると、若者の障がいや死亡につながる心の病気によって生み出される人的資本の損失は、年間約 3,900 億米ドルと推定されています。愛情に満ちた養育者、安全な学校環境、前向きな友人関係といった保護要因は、心の病気のリスクを減らすのに役立ちますが、本報告書は、スティグマや資金不足などの大きな障壁が、あまりにも多くの子どもたちにとって、前向きなメンタルヘルスを保ったり、必要な支援を受けたりすることを妨げていると警鐘を鳴らしています。

この報告を読んで、皆さんは何を感じるでしょうか。これまで、子どもの幸福について取り組む意義が唱えられながら、世界は残念ながら、おとな優先、経済優先で進んできています。決して他人ごとではなく、日本にも関わりのあることで、実際、福祉や教育にかける予算は十分ではありません。パンデミック前から、子どものメンタルヘルスの問題や自殺は増加に転じています。背景としては、子どもの貧困やヤングケアラー、虐待やいじめ、子育てや人間関係の問題など、幼少期からの環境要因が複雑に絡み合って、生涯を通じて子どもや若者のメンタルヘルスを形成し、影響を与えています。おとな達から与えられている世界に受け身でいるのではなく、**「自分ごと」**として、このレポートが示している子どもや若者が抱える問題について考えてみましょう。子どもだからといって、何もできない無力な存在ではありません。関心を持ち、声を上げ、行動に移すことで世界を変えることができます。少しでも幸せが増えて良い環境になるように、能動的に関与していく意識を持つようにしてください。